

心臓超音波検査(心エコー)センター

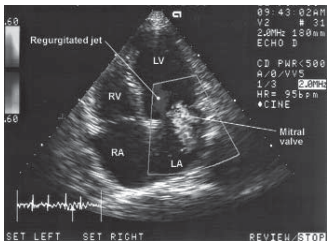
心臓血管センター循環器科医長
伊東風童医師

最近疲れやすい、階段で息切れする、足が浮腫む…。心不全の前触れかもしれません。「まずは検査」の時に有効な心エコーについて、4月に大阪市立総合医療センターから赴任した伊東医師に話を聞いた。

心エコー図検査とは

人の耳には聞こえないほどの高周波数の超音波を心臓に発信して、返ってくるエコー(反射波)によって心臓の様子を画像に映し出す検査です。X線撮影のように放射線による被曝の心配もなく、検査にかかる時間は20分程で患者さんへの負担が大変少ない検査です。現在では3D画像で動いている心臓の様子を観察でき、心室や心房の大きさや壁の厚さはもちろん、弁の形態や動き、また先天的な疾患や血栓が生じていないかなども分かり、以降の治療方針を決める重要な要素になります。

一般的にはベッドに仰向けになって寝ている状態で、胸部に超音波発信機をあて、モニターに映し出される画像を見て医師が診断する経胸壁心エ



心エコー画像

コー図検査と、より詳細な情報が必要な場合には、超音波発信機を食道内

に入れ、食道壁を経て心臓の動きを観察する、経食道心エコー図検査があります。

当院の心臓手術は開胸手術のほかに、患者さんの体に負担の少ないカテーテル手術を多く行っており、「検査方法も患者さんの体への負担をさらに軽減できないか」と考え、心エコー図検査を充実させていきたいと考えています。この検査は外来でも行っており、日頃、心臓に不安を感じておられる方は受診されることをお勧めします。

次に心エコー図検査で見つかる疾患の中から2つ述べます。

大動脈弁狭窄症

大動脈弁が硬化し狭窄が起こると、心臓から大動脈に血液を十分に押し出せなくなり、突然死に至ることもあります。初期症状は胸の痛みや息切れ、めまいなどがあります。最新の治療法はTAVI(経皮的動脈弁置換術)と言い、硬化した弁の所までカテーテルで人工弁



を運び、置き換える治療です。画的ではありますが、血管が細く患者さんの体への負担が大きいことも事実です。当院ではこれよりも細いカテーテルを使ってバルーンを広げるBAV(経皮的動脈弁拡張術)を行っており、この方法はTAVIよりも患者さんの体への負担が格段に少なく、特に血管が細く硬くなっている高齢者の方にも安心して受けていただけます。

心房細動

心房が細かく不規則に振動することで不整脈になる疾患です。症状としては、動悸や胸の痛みなどを感じる人が多いです。長年続くと心臓の働きが落ち、心不全となってしまうます。また、血液が正常に流れないために血栓ができ、これが原因で脳梗塞を起こす場合があります。当院ではカテーテルアブレーション(カテーテルから出る高周波によって不整脈を起こす回路を切る手術)を多く行っています。